

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒個々の学びを深め進路実現を図る教育課程を編成し、学習意欲と学力を向上させる。 ②カリキュラム・マネジメントを推進し、教科横断的かつ探究的な学びを通して課題発見・解決できるグローバルリーダーを育成する。 ③特別活動等を通して主体性、社会性、協働性、創造力等の育成を図る。	①履修指導を通して、生徒の学習意欲と進路実現するための学力を育成する。 ②多様な価値観を受容し、社会に存在する諸課題に対峙して批判的に思考する力の育成を図る。 ③学校行事等を通して、主体性や協働性を高め、問題解決に向かう力を育成する。	①本校の授業の魅力を整理・発信し、生徒の関心や進路との関連を重視した履修指導を充実させる。 ②講演や各行事により諸課題に向かう意識の涵養を図る。各教科における探究的活動に係る授業研究を推進する。 ③学校行事の活性化を図るため、事前学習の充実や生徒との意見交換の場の創出に取り組む。	①効果的な履修指導により学習意欲や学力は向上したか。（履修登録者数や履修単位数の推移） ②批判的・論理的に思考しようとする生徒の意識を醸成することができたか。（講演の振り返り、生徒による授業評価） ③学校行事等において、主体的に取り組み、社会性や協働性を高めることができたか。（アンケート）	①履修説明会における生徒への伝達内容を各教科でスライド化して、工夫してもらい、履修登録者の増加を図ったが、全体の履修登録時間数は例年と大きく変化はなかった。 ②各教科の探究的活動を促進するための研修会等を実施し、組織的な授業改善に取り組んだ。授業評価アンケートでは、課題解決を図る授業展開の設定に係る項目の指標が有意に良化した。著名な文化人や海外アーティストを講師に迎えた講演活動等を実施した。振り返り記述からは意見の異なる他者や異文化理解に係る記述が多く見られた。 ③95.7%の生徒が主体的に楽しんで行事に参加できたと回答した。振り返りで来場者への対応を頑張ったという意見も多くみられ、行事の目的を果たすことができた。	①履修登録時間数に大きな変化はないが、内訳に変化があり、説明に力を入れた科目の中には、履修登録者が増えた科目もあった。生徒の関心や進路との関連性についての説明会内容を充実させて履修科目の増加につなげる。 ②授業研究の取組について、教員の取組は改善されたが、生徒の成長の実感にまで行き着いていない。取組を継続し、有意な取組として定着を図りたい。講演等行事は、テーマに一貫性を持たせたことで特に良い効果が得られた。テーマ設定とそれに適う講師の選定に意を注いでいきたい。 ③一部運営面で課題が残った。運営の質を高めるとともに、外部との連携など企画の質を上げるよう、生徒の活動を支援していく必要がある。	・単位制の特性を活かし、スライド資料や面談による丁寧な説明で、生徒の主体的な科目選択が促されています。 ・履修登録方法や説明手法の見直しに取り組む姿勢もあり、教育課程の質向上に向けた継続的な改善が評価される。 ・学習の成果を発表や制作物として外部に示す取組が見られ、生徒の達成感や自己有用感を高めています。 ・有名な文化人、海外アーティストを講師に迎える試みは評価出来る。 ・各教科での工夫に加え、探究活動や文化祭等の行事を通じて、協働的な学びや課題解決力の育成が図られています。	①履修希望調査やスライド資料の工夫により、生徒が主体的に科目選択する姿勢が育まれた。一方、単位数の上限や生徒数の制限により希望通り履修できないケースもあった。 ②外部講師を招いた探究講座や芸術に触れる機会を設定し多様な価値観との出会いを生み、生徒の学びを広げた。活動成果の記録や共有を通して学びの蓄積や成果を可視化しづらい側面があった。 ③体育祭や文化祭で生徒が企画・運営を担い、主体性・協働的な学びや課題解決力が育まれたが、目的意識が希薄な生徒も一部に見られた。	①早期の情報提供と個別相談体制を強化し、生徒が見通しをもって選択できるよう支援体制をさらに整えるとともに履修選択への納得感を高める。 ②活動後の振り返りや成果発表の機会を設け、学びの深化と共有、定着を図りたい。テーマ設定とそれに適う講師の選定に意を注いでいきたい。 ③行事のねらいや役割の意義を事前に共有し、見通しを持った運営を支援するとともに外部連携を踏まえた内容の検討により質の向上を図る。
2	生徒指導・支援	①生徒指導・支援の組織的取組を推進し、生徒が安心して学べる学校づくりを進める。 ②部活動や課外活動を支援し、責任感や連帯感の涵養を図る。	①学校安全を確保した安心・安全な学習環境の中で、生徒が自らの身心の健康を管理し、意欲的に学校生活が送れるよう、生徒支援の体制の充実を図る。 ②部活動を通して、責任感や連帯感の涵養を促し、生徒の主体的な活動を充実させる。	①危機管理マニュアルを整備し 組織的な危機管理体制を構築する。生徒の日常生活における変化の速やかな情報共有を行い、未然防止の観点に重点を置いた組織的な生徒指導・教育相談体制を実施する。外部支援との連絡調整を密に行い依頼すべきことを適切に判断する。 ②部活動の活性化を図るため、部活動説明会や部活動表彰等を行う。	①危機管理マニュアルに定める事項を十分に職員に周知できたか。 生徒支援について、学校内における対応や外部支援への対応について、組織的な対応とその成果・改善点を次年度へ適切に引き継ぐことができたか。（担当者による評価） ②目標に対し計画性を持って活動し、外部との連携を図ることができたか。（アンケート）	①危機管理マニュアルを整備し、職員必携マニュアルとして各種事案に対する体制や対応方法を確立し、役割の確認、意識向上を図った。 年次ごとの生活指導・教育相談担当を中心に、各種生徒情報の連絡、共有体制を意識し、複数の関係職員で事案整理、対応の判断を行い、外部支援を活用しながら各種事案に対応した。 ②すべての部活に対しマネジメントチェックを行っており、計画的に活動できた。一部の部活では地域と連携し演奏会を行うなど外部との連携が図れた。また、放送部や演劇部は全国大会に出場するなど成果を残した。	①近隣の学校等と共同で防災訓練等の実施結果を踏まえて実態に沿った内容にし、各署の役割を毎年度確認する機会を設け危機管理に対する意識向上を継続していく。 生徒指導・教育相談に対する学校としての対応基準や具体的対応の手順に関する意識合わせを行い、組織的な対応に繋げるための初期対応を丁寧かつ迅速に行えるよう支援体制の共通理解及び強化を図る。 ②計画的に活動できている一方で、参加率や活動実績の面では課題を残す部もある。外部連携等を促し、生徒が互いの力を発揮し、高め合える環境や場を創出していく。	・危機管理マニュアルを整備・共有され、生徒同士の対話的活動も有効に機能しており、危機対応力の高さが評価されます。 ・近隣学校や自治会との連携も意識され地域とのつながりを重視する姿勢がうかがえます。 ・生徒の居場所づくりが工夫が見られ、安心してすごせる環境づくりが進められています。 ・マネジメントチェックや外部講師の活用など、活動の質向上に向けた取組が展開されており、看護の成果が期待されます。	①危機管理マニュアルを整備し、役割確認や対応方法の共有が図られたことは大きな成果である。生徒指導・教育相談では、関係職員の連携により情報共有と対応判断が行われた。優先順位の整理やマニュアルの定期的見直しには課題が残る。 ②全部活でマネジメントチェックを行い計画的に活動で来た。全国大会出場の結果も見られたが、参加率や実績に差があり、外部連携を促すなど、さらに充実した活動環境につなげる必要がある。	②今後は危機対応に関する意識向上を継続し、訓練結果を踏まえた現実的なマニュアルの更新を行う。また、教育相談等の初期対応体制を強化し、役割毎の対応基準を明確化して、組織的に対応できる体制を整備していく。 ②役割の明確化と外部連携の強化を図り、生徒が主体的に関わりやすい環境を整える。協働を促す工夫で活動の質を高め、成果の向上を目指す。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①様々な教育活動をとおして、生徒が主体的に進路目標を定め実現していく力を育成する。 ②キャリア発達課題を意識した進路指導の充実を図る。	①進路行事を通して、生徒の目的意識、責任感を養う。生徒一人ひとりのニーズに合った進路情報の提供を行う。 ②全職員が生徒の主体的な進路実現のために様々な場で適切なアドバイスができるよう情報共有を行うとともに、職員の進路への意識を高める。	①進路行事の目的と意義を生徒に周知し、自分自身で進路を決定するという意識を高める。学校外の活動の情報提供を充実させ生徒の参加を促し、責任感を養う機会とする。 ②全職員に対し teams の機能を活用して生徒の進路目標、進路指導に資する種々の情報提供を行う。教員向けセミナー等の情報提供も行い、意識を高める。	①進路説明会や模試の実施に際し、目的の共有ができたか。生徒への情報提供について、内容や頻度は適切だったか。参加人数は変化したか。 ②職員の進路指導に対する意識は向上したか。進路冊子や各種情報誌の閲覧頻度、セミナー等への参加者は増えたか。	①進路説明会では各年次の状況に合わせて適切な情報を提供を行った。学校外の様々な活動について Classroom を利用し適切な情報提供を心掛け、インターンシップ等の参加者の増加につなげた。 ②職員向けの情報提供を頻繁に行った。また年次ごとに校内模試の結果のデータ分析会を行い、職員の進路指導能力を高めることができた。	①校内模試の実施に際し、生徒への意識付けをより一層強化するため、LHR計画の中に模試の事前事後指導を位置づける。 ②全職員向けのデータ分析報告の機会を設定できなかったため、次年度は職員会議などで実施できるよう、予定を立てておく。	・ICTを活用しながら多様な手段で情報提供を行い、生徒の関心や進路意識を高めている点が評価されます。 ・芸術系やインターンシップなど多様な進路への対応が見られ、生徒一人ひとりに応じた支援が進められています。 ・進路指導資料の整備により効率化が期待される一方で、教員の関与が進路支援の質を左右するとの視点も重要です。	①ICT 活用やガイダンスを通じた情報提供が進み、生徒の進路意識が高まった。一方で、教員の関与や対応力に差があり、情報の活用が一部にとどまる課題もあった。 ②教員間で進路指導情報の共有が進み、ICT を活用した情報提供も効果を上げた。一方、外部業者のデータ活用が教員の指導力低下を招く懸念があり活用バランスが必要である。	①進路資料の整備や面談支援を強化し、教員間の情報共有を徹底する。多様な進路に応じた支援体制を構築し、生徒が適切な選択をできるように導く。 ②情報共有会やデータ活用を継続しつつ、教員一人ひとりの進路指導力を高める研修や自洗機会を設け、支援の質と個別対応力の向上を図る。
4	地域等との協働	①地域資源を活用した教育活動を行い、未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する。 ②家庭、地域社会等との連携・協働により、持続可能な社会の創造を図る。	①授業やグローバル教育に係る行事等で外部資源を活用し、社会に存在する諸課題について多角的に捉え批判的に思考する力の育成を図る。 ②清掃活動や防災活動を行い個々の生徒が地域社会への貢献する意義を学ぶ。	①外部講師を招聘し国際関係に係る講演や行事を実施する。他校生徒と交流・議論する行事やパートナー校交流をコロナ禍以前の規模で実施する。 ②生徒同士や地域の人々と協力をしながら防災等の活動を通し理解と協力の学びの場を設ける	①批判的・論理的に思考しようとする生徒の意識を醸成することができたか。（講演・行事の振り返り） ②学校と地域の協力体制が築かれることができたか、地域の力を生かした学校運営や教育活動が実現できたか。	①海外パートナー校交流は、2カ国(ドイツ・韓国)の受入、2カ国(フランス・イギリス)の訪問を実施した。行事(World Café)では県内高校3校を招待し、SDGs をテーマに英語によるディスカッションを実施した。振り返りからは英語で交流することの充実感が見られた。 ②近隣の学校等と連携し防災訓練を実施し有事の際の対応について確認することができた。また、パートナーズと連携をしてプロジェクター一台の作成を行った。	①海外パートナー校交流について、参加希望者が従前より少ない傾向にある。要因の分析を進め、対策を講じたい。World Café については、昨年度より参加者が増加し、充実した会となった。引き続き生徒の参加意欲の涵養を図りたい。 ②防災訓練だけでなく文化祭等も含め様々な活動が出来ないかを模索し、ニーズに合わせた協働を考えていく必要がある。	・地元の歴史や文化への理解を深める活動や、World Café などを通じ、生徒の関心や主体性が高まった。一方で、活動目的の共有や学びの整理が不十分な面もあった。 ・地域施設や自治体との連携を継続的にを行い地域社会と関わる機会を生徒に提供している点が高く評価されます。 ・一部に活動目的の明確化や生徒の負担感への配慮が求められており、今後の工夫に期待されます。	①海外パートナー校との交流や World Café などを通じ、生徒の関心や主体性が高まった。一方で、活動目的の共有や学びの整理が不十分な面もあった。 ②近隣校との防災訓練を通じた連携により、役割確認や実践的な対応が可能となった。一方で、活動のねらいが不明瞭で生徒の主体的関与が弱い場面もあった。	①活動前後に目的や意義を明確化し、振り返りを取り入れることで、生徒の学びを可視化し、地域・国際理解の深化につなげる。 ②防災活動に加え、その他教育活動全般において、地域貢献の意義を明確に伝え、地域との協働的な場づくりを行い、生徒の当事者意識や実践力向上及び活動の充実化を図る。
5	学校管理 学校運営	①社会の変化に対応し、柔軟かつ迅速に教育課題に取り組み、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。 ②教育計画とのバランスを図り、教員の働き方改革を進める。	①保護者及び地域と連携を行い生徒等に安心した教育環境の活性化を行う。ホームページ、各種説明会等の内容を充実させ、家庭および地域社会に対する広報力を高める。 ②業務の方法の見直しや分担をすすめ、より一層の効率化を図る。各学習教室等を含め教育環境の向上を行いより良い職場環境を提案する	①ホームページ更新の頻度を挙げ、掲載情報も充実させるほか、学校説明会等で提供する情報の最適化に努める。 ②行事等を精査し開催方法等について最善策及び 必要性について 検討をする。業務の負担を担当表などで見える化し、業務の均等な分担に努める。teams を利用し連絡体制を効率化するほか、日頃からデータの整理や物品の管理を呼びかける。	①各活動を活性化させ社会に開かれた教育活動が 実施できたか。（担当各所による評価）ホームページの更新は定期的に行われていたか。広報活動での情報提供の方法と内容は適切だったかを各種説明会後のアンケートで検証する。 ②職員の勤務状況は改善したか。データの整理や物品管理は適切に行われていたか。	①学校説明会における授業紹介動画のリニューアルやホームページの更新手続き書類の様式変更など、情報の更新や提示の工夫に努めた。さらに新入生を対象にアンケートを実施し、学科・コース間の差別化、必要な広報活動の精査について検討を行った。 ②物品管理表等を新たに作成し所在が分かるように対応を行った。また、業務改善を行ったことで新たな気づきがあり更なる業務効率化につながるができた。	①学校説明会後のアンケート結果や当日の参加率を踏まえ、説明会当日の回数を見直し、業務のスリム化・効率化を図ると共に説明内容や公開講座をより一層充実させる。 ②創立 30 周年を迎えるにあたり教育環境等の整備を行いより良い職場環境にする 業務改善による問題点を洗い出す必要がある。業務過多や時期及び人数配置等について更なる検討が必要である。	・評価できる取組である。 ・動画のリニューアルやホームページ更新は、評価されるが、学校の魅力が一見伝わりにくいため、「一歩踏み込んだ広報」が重要と考える。 ・業務量や人員配置に関する課題の洗い出しと健闘が必要であり、「やる気頼り」の体制から脱却を図るべきとの指摘がある。業務のデジタル化も不可欠で、無駄な業務の見直しと継続的改善が求められている。 ・PTA 対応は負担の見直しも含め柔軟な対応が必要とされている。	①動画のリニューアルやホームページ更新により、学校情報の発信力が向上し、外部への認知度向上に貢献した。一方で人数制限のある説明会やオープンスクールについては学校の魅力が伝わりきれていないのではないかと指摘があった。 ②物品管理表の整備や業務棚卸により効率化が進んだが、依然として業務量の多さや負担の偏りが課題である。非効率的な業務も残り、教員の余裕のなさが教育活動に影響を与えている。	①学校行事や説明会の内容・運営方法を見直し、参加者が学校の雰囲気や教育内容をより深く理解できるよう工夫する。広報媚態の活用も含めて、学校の魅力を丁寧に伝える多面的な発信を強化し印象付けにつなげていく。 ②業務の見直しとデジタル化をさらに進め、無駄な業務を削減する。役割分担の明確化と連携強化により、教職員の負担軽減と現場環境の改善を図る。